

風土記の丘の花だより²⁵²

今、そしてこれから見られる植物(2024年9月14日)

もう9月も半ばだというのに、一向に涼しくなりません。お互い体調の維持に努めましょう。さて、今回は掲載する画像を間違えるという失敗をしてしまいました。改めてお詫び申し上げます。それで、今回は誤って載せたそのヌスビトハギから紹介します。



名前はよく似ていますが、花もひつつき虫の種子も全く違います。ヌスビトハギの花は、アレチヌスビトハギ（以下アレチ）より色が淡く、花も小さめです。アレチは北アメリカあたりから入って来た外来種ですが、本種は在来種とされています。花はアレチの方が派手で、よく目立ち、ひつつき虫の数も3倍ほど多いです。ですから、秋の野でひつついてくるのはアレチの方が圧倒的に多いです。万葉植物園に向かう坂道の左にヌスビトハギ、右にはアレチと分かれて生えているのが面白いです。



小早川家の敷地の南東隅にノカンゾウが咲き始めました。坂道からでも見るができます。ワスレグサの仲間は、これまでトウカンゾウ、ヤブカンゾウ、ユウスゲと咲いてきましたが、やっとノカンゾウの順番が回ってきました。ヤブカンゾウに似ていますが、一重咲きですっきりした花です。万葉植物園の百合などが咲く一角にももうすぐ咲くと思います。園芸植物がお好きな方ならヘメロカリスをご存じだと思いますが、それと同じ仲間です。



この草は草むしりでは必ず抜き去られる草で、言ってみれば「名前なんかどうでもいい」と思われがちな草です。でもちゃんとした名前があります。コニシキソウです。茎をちぎると白い汁が出るのでご存じの方もおられると思います。葉の真ん中に小さな斑点があるのが特徴ですが、それが無いものもよく生えています。それは別の種類でおそらくアレチコニシキソウでしょう。この仲間は区別がむずかしく、葉や茎、実などを虫めがねで調べないとはいっきりしません。でも、コニシキソウだけは斑点で分かりますね。このごろ穂が細長く、緑色というより黄色に近い写真のようなエノコログサを見かけるようになったと感じませんか？これはフシネキンエノコロという外来種です。風土記の丘でも、安藤塚周辺などで群生が見られます。フシネとは「節根」のことで、茎の節から根を出すことからこんな名前が付けられました。こんな草は伸びてくると邪魔者に他なりませんから、すぐに根元から刈り取られてしまいます。その前に観察してみてください。



松下